

「公印省略」

4農林試第5500号
令和5年3月24日

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

麦類赤かび病の防除について

麦類の赤かび病対策は、出穂期後に薬剤防除することが効果的です。3月5半旬調査では出穂が始まったほ場も確認しており、本年産の出穂期は平年・前年と比べて早いと予想されています。必ずほ場に入って出穂状況を確認し、適期防除に努めましょう。

技術情報第15号

1 対象作物：麦類（小麦、大麦）

2 病虫害名：赤かび病

3 生育状況および気象情報

- (1) 農林業総合試験場における麦類の出穂期（3月22日発表）は、今後の気温が平年並で経過した場合、11月18日播種の小麦で平年より4～6日早く、11月24日播種の大麦で平年より3～11日早いと予想されている（下表）。
- (2) 福岡管区気象台の1か月予報（3月23日発表）によると、向こう1か月（3月25日～4月24日）の気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並とされている。

4 防除対策

- (1) 1回目の薬剤防除は、小麦および裸麦（開花受粉性）では開花期（出穂後7～10日）、二条大麦（開花受粉性）では蒴殻が押し出されてくる穂揃期の約10日後（出穂後12～14日）を目安として実施する。出穂期および防除適期は、今後の気温の変動により前後する可能性があるため、必ずほ場内の出穂状況を確認してから防除を行う。
- (2) 赤かび病に弱い品種では2回防除を徹底し、その他の品種についても1回目防除後に降雨や曇天が続く場合は補正防除を実施する。2回目の防除（補正防除含む）は、1回目防除の7～10日後に行う。
- (3) 液剤による薬剤防除の場合、散布した薬液が乾く前に降雨があると、防除効果が低下する。また粉剤では、散布後6時間以内に降雨があると防除効果が低下するので、薬剤防除を行う際は、散布後の降雨予想等に注意を払う。
- (4) 薬剤防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に小麦、大麦で農薬使用基準の異なる薬剤が多いので注意を払うとともに、周辺ほ場への飛散防止対策を講ずる。

表 農林業総合試験場における麦類の出穂期（令和5年3月22日発表）

麦種	品種名	播種期 (月/日)	予想出穂期 (月/日)			調査地点 (調査機関)
			本年	平年差	前年差	
小麦	シロガネコムギ	11/18	3/29	-4	-5	大木町 (筑後分場)
	チクゴイズミ	11/18	3/29	-6	-6	筑紫野市 (農産部)
	ちくしW2号 (ラー麦)	11/18	3/27	-4	-4	大木町 (筑後分場)
			3/28	-6	-7	筑紫野市 (農産部)
大麦	はるしずく	11/24	3/26	-3	-4	大木町 (筑後分場)
	ほうしゅん	11/24	3/24	-11	-8	筑紫野市 (農産部)
	はるさやか	11/24	3/23	—	—	筑紫野市 (農産部)

注1) 平年値はH24～R3年播の平均値。

注2) この値は暫定値で、今後変更することがある。

注3) 予想出穂期は、今後の気温が平年並で推移した場合の予測値。

過去の播種期および出芽期～出穂期の積算温度と、これまでの積算温度および麦の生育状況から予想した。



赤かび病の発生状況（左：小麦、右：大麦）

病虫害防除所のホームページでは、各種病虫害の発生状況を随時更新しています。
発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

- 福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jpnp.ne.jp/fukuoka/> または右 QR コード①



- Twitter（ツイッター）で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

Twitterの本アカウント（福岡県農作物病虫害情報）へのアクセス

URL: https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka または右 QR コード②

